

# 平成31（令和元）年度 学校評価総括表



清新 敬愛 力行

奈良県立西和清陵高等学校

# 平成31（令和元）年度 学校評価総括表

奈良県立西和清陵高等学校

|   |   |   |         |
|---|---|---|---------|
| 校 訓   | 清 新   敬 愛   力 行   |   |         |
| 教 育 目 標   | 校訓「清新 敬愛 力行」の精神を基調として、社会人としての「生きる力」を育成する。   |   |         |
| 学校経営方針  | <p>(1) 日々の学習を通して確かな学力を身に付けさせると共に、一人一人の*キャリア発達を促す。</p> <p>(2) 人権を尊重する態度やコミュニケーション力を培い、自他を敬愛する心と社会規範意識を高める。</p> <p>(3) 心と体のバランスを整える力を養い、充実した生き生きとした学校生活を送らせる。</p> <p>(4) 生徒の10年後に必要な力の基礎を身に付けさせたり、学校の10年後のあるべき姿を意識して校務の工夫・充実を図ったりする。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">*キャリア発達：社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程。</p> |   |         |
| 目指す学校像  | ○ 生徒が自己実現のために生き生きと学習する学校  |   |         |
| 目指す生徒像  | ○ 自己実現に向けて、主体的に学習に取り組む生徒<br>○ 周りの人々と適切なコミュニケーションが図れる生徒  |   |         |
| 目指す教員像  | ○ 一人一人の生徒を深く理解し、心に寄り添い、生徒の自己実現に必要な力を育てる教員<br>○ 校務を見直すと共に自己のスキルを高められ、ワーク・ライフ・バランスが図れる教員  |   |         |
| 昨年度の成果と課題   | 本 年 度 の 重 点 目 標   | 具 体 的 目 標   | 総 合 評 価 |
| 生徒の79%が「意欲的に授業に取り組んでいる」と回答しているが、同じ問いに対する教員の回答は38%と大きな開きがある。確かな学力を育成するために教授方法・評価方法などを工夫していく。また、部活動加入率は42%と低く、遅刻数も前年度より増えている。基本的な生活習慣の確立、規範意識の向上、自尊心の醸成などのためにも部活動を活性化させていく。 | (1) 確かな学力の育成  | ア 基礎的・基本的な学習内容を定着させるための工夫・充実<br>イ 思考力・判断力・表現力を高める「主体的・対話的で深い学び」の実現<br>ウ 家庭学習時間の確保                       | B       |
|   | (2) 生徒の自己実現   | ア 一人一人の生徒の能力や適性に応じた進路指導の工夫・充実<br>イ 部活動やボランティア活動を通じた、達成感、成就感、自己肯定感等の向上<br>ウ 実用英語技能検定、漢字検定及びパソコン検定等の資格の取得 |         |
|   | (3) 社会規範意識の向上   | ア 基本的な生活習慣の確立<br>イ 様々な場面でのコミュニケーションを通じた、ものの見方や考え方の育成<br>ウ 地域協働「地域と共にある学校づくり」の工夫・充実                      |         |

| 評価項目 | 具体的目標<br>(評価小項目) | 具体的方策・評価指標   | 自己評価結果 | 成果と課題(評価結果の分析) | 改善方策等  | 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策   |   |
|------|------------------|--|--------|----------------|--|--|---|
| 学習指導 | 基礎・基本の学力の定着      | ・目的意識を高め、学習意欲の向上を目指す。1日1時間以上、自主学習をする生徒が、50%になることを目標とする。  | C      | B              | ・アンケート調査結果(%)<br>1年平日13.2、休日23.5<br>2年平日8.5、休日13.0<br>3年平日15.7、休日24.7  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も更に授業展開方法の工夫や教材研究を行う。</li> <li>・予習・復習や課題の提出等の指導だけではなく、進路実現に向けて、家庭での学習の重要性を認識させていく必要がある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら家庭学習に取り組む習慣づくりが必要。</li> <li>・「授業が分かりやすい」から「勉強が面白い。もっと深めていきたい」にステップアップする取組を考えていく。</li> </ul>   |
|      |                  | ・生徒が理解できる、分かりやすい授業を展開する。アンケートで「授業がよくわかる」と答える生徒が75%以上になることを目標とする。   | A      |                | ・学校評価アンケート(生徒)によると、75%が本校の授業は分かりやすいと評価している。  |  |   |
| 特別活動 | ボランティア活動への参加・啓発  | ・募金活動、ボランティア清掃等への参加を増やす。   | A      | A              | ・募金活動、大和川クリーンキャンペーン、三郷町夏祭り、万葉荘園クリスマス会への参加を続けている。今年度から、万葉荘園園遊会へも参加した。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動生、生徒会役員以外の一般生徒のボランティア活動への参加などを啓発する。</li> <li>・部活動加入率に関しては、引き続き紹介と体験の充実を図る。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や部活動生の活躍を他の生徒に知らせる取組をしていくべき。そのツールとしてSNSを使うことも考えられる。</li> </ul>   |
|      | 生徒会活動の活性化        | ・各委員会で行う内容を見直し、委員会活動を起点として学校活性化を促す。  | A      |                | ・生活委員の挨拶運動へ参加、厚生委員の募金活動へ参加ができた。今年度リーダー研修会を実施することができた。  |  |   |
|      | 部活動の活性化          | ・部活動紹介・体験を充実させ、加入率60%を目指す。   | C      |                | ・部活動加入率は学年末において44%であった。  |  |   |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導対象者への指導を強化し、指導参加率90%を目指す。遅刻は昨年度比20%減を目指す。これを通して生活習慣と健康への意識高揚を図る。</li> <li>・一斉頭髪、服装点検を定期的実施する。</li> </ul> | A      | A              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻者の数は、昨年度比約30%減。遅刻指導参加率は85%程度である。</li> <li>・頭髪服装点検については、目標のとおり、各学期に一度、確実かつ効果的に実施できた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻生徒の減少の大きな要因は、1年生の遅刻減。来年度の2年生を中だるみさせない指導が必要である。</li> <li>・小さなことを見逃さない体制が大切。アンケート等の丁寧な分析、情報共有等、教員間の連携を強化する。</li> <li>・今後、一般生徒のボランティア参加者を増やし、コミュニケーション力につなげたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地道な遅刻指導が遅刻生徒の減少という結果をもたらした。次年度も粘り強い指導を継続していく。</li> <li>・挨拶ができる生徒も増えてきている。さらにステップアップして、コミュニケーション力の養成していく。そのためにも地域との連携事業を推進していく。</li> </ul> |
|      | 規範意識の向上          | ・生活アンケートを実施し自己認識を高める。また、全校集会や学年集会を通して集団意識の向上を図る。   | B      |                | ・いじめのアンケート、生活アンケートにより学校全体が危機感をもって生徒指導に取り組めた。集会を増やすことはできなかったが、様々な啓発には生徒指導部員を中心に積極的に取り組めた。   |  |   |
|      | あいさつの励行          | ・毎朝の校門でのあいさつ運動、SHRでの挨拶指導を通してコミュニケーションの大切さを理解させ、その実践力の向上を図る。  | B      |                | ・生徒会活動の挨拶運動の活性化もあり、挨拶をする生徒は年々増えている。ボランティアに参加できるようになってほしい。  |  |   |

| 評価項目        | 具体的目標<br>(評価小項目)      | 具体的方策・評価指標   | 自己評価結果 | 成果と課題(評価結果の分析)   | 改善方策等   | 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策  |
|-------------|-----------------------|--|--------|--|---|---|
| 進路指導・キャリア教育 | 進路希望の実現               | ・進路実現に必要な学力を養成するために、年間を通して促進講座を実施する。   | A      | B<br>・年間を通して、各教科の協力で促進講座を開催することが出来た。<br>・進路ニュースを6回の発行はできそうである。<br>・本年もオープンキャンパスの案内を掲示し案内できた。また、看護医療については、別の場所に変え案内した。<br>・進路資料室については、時期によっては利用する生徒がいた。(就職のWEB求人や推薦入試のPCによる出願等)   | B<br>・全体を通して、来年度は生徒が自分の進路についてガイダンス等で興味を持てるように考えているが、少し他の方法も考える必要があるかと思う。例えば就職に関しては本来2年後半から考えさせているが、1年の段階で発信できるものと考えていきたい。<br>・現在スタディサポートを行っているが、来年度は同じ時期に少し基礎を問う基礎力診断テストを行うことを検討している。 | B<br>・医療系の専門学校へ進学する生徒が増えてきている。人の役に立ちたいと思う生徒が増えてきたのかもしれない。仕事の中身をイメージできるようなキャリア教育が生徒に目標を待たせることにつながる。<br>・今年度は早くから職場見学に取り組んで頂いたようである。その結果、就職試験の一次選考に応募する生徒が増えたようである。 |
|             | キャリア教育の推進             | ・保育園実習などを2回実施する。<br>・進路講演会、進路ガイダンスを、各学年で年2回実施する。<br>・インターンシップの案内をすることにより将来について考えさせる。   | B      |  |   |   |
|             | 進路情報の提供               | ・「進路ニュース」を年6回発行する。<br>・進路説明会やオープンキャンパスの案内、進路情報誌の適切な提供を行う。<br>・進路資料室の利用を高める。  | B      |  |   |   |
| 人権教育        | 人権意識の確立と仲間作り          | ・人権HRを充実させることで、人権意識・ボランティア意識・道徳意識の確立を図る。   | B      | B<br>・クラスの現状を考えながら、人権HRを展開することができた。<br>・人権学習会として、悠以さんをお迎えし、歌とお話を聞いた。生徒の心に訴えかけるいい学習会・講演会であった。   | B<br>・様々な問題が起こっている昨今、何を大切にしなければいけないかをよく考え、その時々に必要な研修・研鑽の機会を設けていきたい。   | B<br>・学年内で工夫して人権HRを展開してもらった。<br>・人権学習会を通して、生徒が自分と照らして様々なことを考えたことと思う。  |
|             | 生徒・教職員・保護者の人権意識の高揚と連携 | ・効果的な研修会や学習会の企画・運営。<br>・生徒・教職員・保護者の共通した意識の高揚とそれに対する啓発活動の具体化を図る。  | A      |  |   |   |
| 教育相談特別支援教育  | 教育相談の充実               | ・スクールカウンセラー配置事業の有効な活用に努め、精神的な不安を抱える生徒への相談の充実に努力する。<br>・校内教育相談体制の構築に努める。<br>・教育相談充実のために年1回の研修を企画する。<br>・外部機関(教育研究所・医療機関・スクールカウンセラー等)との連携を図る。        | B      | B<br>・「配慮を要する生徒」についての外部機関との連携が図れるようになった。<br>・生徒のカウンセリング後、担任とカウンセラーとの情報交換の場が定着をした。<br>・情報交換等に時間がかかり終了時間がかかり遅くなるのが課題である。<br>・11月に行った職員研修では教員のメンタルヘルスが深刻の度合いを深めている中でバーンアウトに陥らないようにと教員自身のリラクゼーションがテーマであった。自分の心の健康を保つことは結局生徒対応に余裕を持てることにつながる。今後それぞれの生活の中で活用していきたい。<br>・中学校訪問の聞き取りにより早期に発達障害などの生徒が把握でき、早い段階からの支援体制がとれるようになった。<br>・発達検査を受けどのような支援が必要かという結果を受けながら、支援員が一人のため個々の生徒に十分な授業支援ができなかった。<br>・生徒の支援の取組にあたり、教科担当の意識や授業間の休みの立ち番など全職員の協力を得ることができた。 | B<br>・スクールカウンセラーの有効利用を認識してもらう。<br>・「配慮を要する生徒」の情報共有が円滑かつ厳正に行われるために教員同士のコミュニケーションを密にし、報告書のまとめと更新をまめに行う。<br>・発達検査結果を受けた支援を充実させるために支援員の増員が必要である。  | B<br>・スクールカウンセラーに丁寧に対応をしていた。事後の情報交換も万全である。<br>・生徒の実態が多様であり、きめ細かな対応が望まれる。持続的な取組ができるよう、教員に過度な負担がかからないように配慮が必要である。<br>・職員研修等、今後もニーズに合った内容を開催していく。                    |
|             | 特別支援教育の推進             | ・発達障がい等により特別な教育的支援を必要としている生徒の実態把握に努める。<br>・学習活動や生活全般にわたる支援の促進と充実を図る。<br>・特別支援教育の推進、発達障がいの理解のために年1回の研修を企画する。<br>・特別支援教育支援員制度を活用して、効果的な授業中の学習支援に努める。 | A      |  |   |   |

| 評価項目      | 具体的目標<br>(評価小項目)  | 具体的方策・評価指標  | 自己評価結果 | 成果と課題（評価結果の分析）   | 改善方策等   | 学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策   |
|-----------|---|---|--------|--|---|--|
| 保健・安全管理   | 生徒の心身の健康状態把握と対応   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各検診の事前・事後指導の徹底を行う。</li> <li>各種面談、健康調査票、定期検診、学校保健委員会を通じた生徒の身体状況、健康状態の共通理解を図る。</li> </ul>  | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>各検診の事前、事後指導を個別に行った。</li> <li>各研修等を開催し、教職員・生徒の共通理解を深めることができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、学校医や他機関と連携し、教職員の意識の向上と知識の深化を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は「清陵セミナー」で全学年「防災教育」に取り組む。安全教育と関連付けて取り組んでいく。</li> <li>熱中症対策講座やケガの応急処置講座などは大学と連携して講師を派遣できるので利用すればよい。</li> <li>食育の重要性を啓発するような、簡単なイベント等を検討する。</li> </ul> |
|           | 危機管理体制の整備と安全教育の推進   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全マニュアルに基づき、緊急時の適切で迅速な体制の共通理解を図る。</li> <li>生徒指導部と連携した生徒対象の安全教育を実施する。</li> </ul>  | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校安全マニュアルに基づき、適切で迅速な体制の周知徹底ができた。</li> <li>職員、生徒対象に熱中症講座を開き、応急手当の理解を深めた。</li> <li>「眼のセミナー」を行い、コンタクトの正しい使用方法について講習を行った。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが健康問題に興味・関心をもって、改善していく努力をしていくための指導とサポートを行う。</li> </ul>   |  |
|           | 食育教育の推進   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活実態に基づいた、食育推進体制の強化と指導全体教育の推進を行う。</li> <li>生徒、保護者への啓発活動を行う。</li> </ul>  | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>保健や家庭科授業と連携し、栄養の摂り方や、楽しく食事することの重要性を学習した。また、体育授業では朝食をしっかり摂って体を動かすことを強調した。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と連携し、食育の重要性を啓発していく場を設けることが課題である。</li> </ul>  |  |
| 教職員の研究・研修 | 生徒の実態・ニーズを踏まえた研修の実施。実践につながる研修講座への参加。教科の枠を超えた授業公開・授業研究の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>教育研究所の研修講座、教育課程研究集会、教科等研究会の研修会に積極的に参加し、その成果を活用する。</li> </ul>   | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程研究集会に各教科で参加、中堅教諭資質向上研修も該当の教師が参加、また進研が開催する研究会などにも参加した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの教員が各種研究会に参加するとともに、その成果を授業等に積極的に生かすことが大切である。</li> <li>西和清陵セミナーは小中高の連携の意味から、来年度以降もテーマを変えて実施していく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>教育週間の取組で、人権教育のホームルームを公開した。異校種の教師にとっても、たいへん参考になった。</li> <li>地元の小中高の教師が校種を越えて、教育テーマについて話し合うのはとても意義深い。次年度も西和清陵高校がイニシアティブをとって進めていただきたい。</li> </ul>          |
|           |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内において学習・生徒指導・進路指導・教育相談等に関する研修を各学期に1回以上実施する。</li> <li>授業公開・授業研究を実施する。</li> </ul>   | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育、特別支援教育、進路指導、教育相談の研修を実施した。</li> <li>7月に近隣の小中学校の先生方と合同で西和清陵セミナー「英語嫌いを生まないための指導の在り方について」を本校で開催した。</li> <li>11月に相互授業参観を行ったり、初任者が研究授業を実施したりした。</li> </ul>               |   |  |
| 学校事務      | 経営方針に基づく教育環境の整備   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が安全にかつ安心して学習に取り組む、充実した学校生活が送れるように定期的に校内を巡回し、環境整備に努める。</li> <li>放置できない危険箇所等については、整備計画を提出し、早期に復旧できるよう関係課と連携し、働きかけをすすめる。</li> </ul> | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>十分とは言えないが、予算の範囲内で学校設備等の整備に努めた。今後も安全点検により確認できたものについては、優先順位を考えて対応していく。</li> <li>年度当初にグラウンド法面やフェンスの整備について県教委へ上申し、工事設計の準備段階まで対応してもらった。実際の復旧は見通しがついていないが、少し動き出した。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の環境整備、光熱水費の削減については、今後も課題として継続的に取り組む必要がある。</li> <li>適正な事務執行のためにも各担当が法令を遵守し、自己研鑽に努める。</li> </ul>               | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校設備の整備・管理は学校事務職が担うべき分野であり、よりよい教育環境づくりに不可欠である。</li> <li>学校運営予算が削減されている状況にあるが、適正な事務執行に努め、計画的な整備を図っていく。</li> </ul>  |
|           | 学校運営経費等の適切な執行管理   | <ul style="list-style-type: none"> <li>法令を遵守し、適正な事務処理・予算執行に努める。</li> <li>光熱水費を少しでも削減できるよう管理し、省エネ等について職員への啓発に努める。</li> </ul>   | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>監査を受け、適正な事務、予算執行について再確認できた。</li> <li>職員の省エネ意識も向上してきた。今後も気を緩めず削減に努める。</li> </ul>   |   |  |

| 評価項目  | 具体的目標<br>(評価小項目)  | 具体的方策・評価指標  | 自己評価結果 | 成果と課題(評価結果の分析)   | 改善方策等  | 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策  |
|-------|-------------------|---|--------|--|--|---|
| 広報・渉外 | 学校教育活動の紹介         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌「紅葉」の発刊及びWebページ等による広報活動の推進。</li> <li>・中学生の体験入学(オープンキャンパス)において、在校生が自身の感じている本校の良さを自分たちの言葉で伝えることができるシステムを推進する。</li> </ul> | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「紅葉」は七月号は教員が、三月号は育友会担当者が中心となって編集を行い、それぞれの視点で作成に当たった。</li> <li>・中学生体験入学は、参加した中学生・保護者に行ったアンケート結果から、概ね好評を得ることができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・育友会と平日頃から意思疎通を図り、双方が納得できる紙面作りに励む。</li> <li>・企画内容を充実させ、更なる参加者増を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者から様々な意見を吸い上げて紙面に反映させていく。</li> <li>・中学生の要望により応えた企画を行う。</li> </ul> |
|       | 保護者・地域・関係諸機関の連携強化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットの内容を充実させ、新聞などの外部広報機関との連携をはかる。</li> <li>・地域のイベントやボランティア活動に積極的に参加・貢献して地域の理解を促進し、親睦を図る。</li> </ul>                     | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カラー印刷で紙面が見栄えするパンフレットは概ね高評価を得た。</li> <li>・地域のイベントには部活動、生徒会を中心に積極的に参加貢献できた。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度から学校要覧を廃止し、その分の労力や予算を投入して、より充実したパンフレット作りを目指す。</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校からの評判は上々であった。進路先をより具体的に知りたいたいという要望があったので、検討したい。</li> </ul>      |
|       | 同窓会の組織            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会組織を整備し、活性化を図る。</li> <li>・名簿管理の業者委託を行い、業務の効率化を図る。</li> </ul>  | C      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会役員交代が円滑に行えず、活動が沈滞化している。</li> <li>・名簿管理業者とは密に連絡している。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・会則の見直し、役員の負担減などを思考し、同窓会の活性化を図る。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な活動内容に対する質問もあり、活性化が急がれる。</li> </ul>                              |
| 図書情報  | 図書情報を活用した学校生活の展開  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、教員からの推薦図書を充実させる。</li> <li>・授業をサポートし、授業・総合学習などで利用できる図書館作りを進める。</li> <li>・生徒自身が必要な情報を自ら得られる「場」としての環境整備を進める。</li> </ul>  | C      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担当や生徒からの推薦・要望のあった幅広い分野の図書を揃えるよう努め、授業、学校行事などのサポートを行った。良書との出会いや読書意欲を喚起できるような取り組みを進めた。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書選定における情報収集・選書、図書紹介等をさらに工夫する。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書を増やし、活気ある図書館運営に努めてほしい。</li> </ul>                                 |
|       | 図書室利用の促進と情報発信     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館だより、新着図書の紹介などの内容をより充実させるとともに、生徒対象の読書・図書館利用アンケートを実施し、図書館利用と読書意欲を喚起する取り組みを進める。</li> </ul>                                | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事(朝の読書、図書館ライブ等)では、広報活動や図書委員会活動の活性化に努めた結果、興味を持つ生徒が増えた。</li> <li>・生徒の意識や要望などを把握し、図書館運営に反映できるよう努力した。</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館ライブでのビブリオバトルは画期的な取り組みであったと思われる。さらに多くの生徒が参加できる図書館ライブにすべく工夫したい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事において、内容の改善、検討を行い、図書委員会活動の活性化を進めてもらいたい。</li> </ul>                |
|       | 教育活動に関する情報発信      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webページなどを通じて、本校生徒、保護者、地域、受験生に向けて学校の活動・魅力を発信する。</li> </ul>   | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの更新に於いてトピックスは随時であったが、各種行事について情報発信に努めた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部団体の行事への参加や応募も含めてさらに迅速な情報発信に努めたい。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブサイトにおいて、内容の充実を図り、学校の見える化を推進してもらいたい。</li> </ul>                   |

| 評価項目  | 具体的目標<br>(評価小項目)                 | 具体的方策・評価指標  | 自己評価結果 | 成果と課題（評価結果の分析）  | 改善方策等  | 学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策  |
|-------|----------------------------------|---|--------|---|--|---|
| 環境・美化 | 校内施設の保全、安全・防災環境の充実               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・美化関連用具、及び清掃用具の点検保全を学期毎に1回行う。</li> <li>・四季折々の花を絶やさない美化活動を行う。(年2回)</li> <li>・救助袋を使用した防災学習・訓練の実施する。</li> <li>・「きれいな学校・西和清陵高校」をスローガンに校内美化の意識を高める。</li> <li>・安全点検を日常的に行うことにより、危険箇所や潜在危険を早期に発見し、事故災害の可能性を除去する。</li> </ul> | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃用具の不具合が多かった(教室清掃用ほうき)。</li> <li>・危険な生徒用機の修復と椅子の交換。</li> <li>・チューリップの植栽。</li> <li>・救助袋を用いた避難訓練を引き継いだ。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室清掃用ほうき等の新規購入など清掃用具の整備が必要。</li> <li>・「きれいな学校」にすのため、拭き掃除の頻度を高める。</li> <li>・安全点検の定着化</li> <li>・地域により貢献できるよう通学路清掃の機会を増やす。</li> <li>・ゴミの分別回収の意識の涵養を普段から行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の「清陵セミナー」で取り組む「防災教育」と関連させて、避難訓練の内容や実施方法を工夫していく。</li> <li>・地域の三郷町の大和川クリーン運動や通学路清掃など、地域と連携をはかりながら、さらに充実した活動になるように努める。</li> </ul>               |
|       | 地域に「開かれた学校」となり地域コミュニティーにおける役割を担う | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路清掃について、地域の行事の一つとして定着させるとともに、生徒が地域の人たちとコミュニケーションをとることができる体験の場にする。(年3回)</li> <li>・ゴミの分別回収の啓発を行うとともに、分別回収の徹底を図る。</li> </ul>   | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路清掃は、天候の都合で花壇の整備、チューリップの植栽、学校敷地内の清掃に変更をした。</li> <li>・分別用のごみ箱に対象外のゴミが混じっていることがあった。</li> </ul>                    |  |   |
| 第1学年  | 基本的な生活習慣の見直しから確立へ                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を励行させる。</li> <li>・時間厳守を徹底させる。</li> <li>・身だしなみの指導を徹底する。</li> <li>・礼儀や正しい言葉遣いを定着させる。</li> <li>・規範意識の定着させる。</li> </ul>   | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の中で、時間厳守の1つである遅刻数が1学期から倍増した。</li> <li>・一部生徒であるが、服装の乱れが目立った。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻指導への参加率を高くする。</li> <li>・服装の乱れを注意喚起し続ける。</li> <li>・授業態度の更なる向上を図る。</li> <li>・進路行事への積極的参加を呼びかけ続ける。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の遅刻指導とほかに回数を定め、学年内指導を検討する</li> <li>・定期的な服装確認や、各HRでの声かけを続ける。</li> <li>・学校外で行われる進路講演会や学校説明会の案内等を積極的に行う。</li> <li>・学校行事等での協力意識を深めさせる。</li> </ul> |
|       | 学び直しから基礎学力の充実へ、                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本的内容の復習をさせる。</li> <li>・家庭学習の定着(予習復習)させる。</li> <li>・授業を大切にしている意識の育成する。</li> </ul>   | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学当初から、授業姿勢においてはおおむね良好であった。</li> </ul>  |  |   |
|       | 帰属意識と愛校心の育成および学校生活での目標設定         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活の理解となかま意識を育成する。</li> <li>・学校行事や課外活動へ、積極的に参加させる。</li> <li>・思いやりの心を育成する。</li> <li>・将来を見据えた学校生活を充実させる。</li> </ul>  | A      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス間や学年全体的に仲が良く、仲間意識を強くもつ生徒が多いように感じた。</li> <li>・進路ガイダンスなど、将来に関わる進路行事を大変興味深く取り組む様子が多々見られた。</li> </ul>              |  |   |

| 評価項目 | 具体的目標<br>(評価小項目)            | 具体的方策・評価指標  | 自己評価結果  | 成果と課題(評価結果の分析)   | 改善方策等  | 学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策  |
|------|-----------------------------|---|---|--|--|---|
| 第2学年 | 中堅学年としての自覚と基本的生活習慣の確立       | <ul style="list-style-type: none"> <li>規範意識の向上と規律ある行動を確立させる。</li> <li>挨拶の励行させ、基本的生活習慣を確立させる。</li> <li>修学旅行等の学校行事を通じて集団意識、思いやりの心、愛校心の高揚を図る。</li> </ul>   | C   | <ul style="list-style-type: none"> <li>クラス替えによる人間関係の変化で、落ち着かない雰囲気の中、問題行動も多くなった。指導においては、クラスでの人間関係を築きながら自分の目標を求めるように促した。</li> <li>欠席・遅刻に関しても、特定の生徒が繰り返す傾向にあったが、修学旅行以降は、クラス内での人間関係の改善・進路に向けての意識改革により、少しずつ減少傾向にある。</li> <li>授業の取り組みに関しては、クラスにより様々であるが、チャイムによるオンとオフの切り替えを繰り返し指導し、3学年につないでいきたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はもちろん、保護者や教師間でも綿密なコミュニケーションをとり、生徒の特性・人間関係・家庭環境をしっかりと把握した上で生徒の生活・進路指導を行っていく。</li> <li>進路実現について、進路に関わる情報収集や、具体的目標の早期設定に努めていく。</li> <li>自分の進路を見据えた促進講座の参加、英語・漢字・ワープロ検定の受験、入試・採用面接をいつも意識した言葉使い、服装・身だしなみを整えるなど促す。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は3学年となるので、進路実現に向けて意識を高揚させ、具体的な取組をすすめていくこと、加えて社会人として必要とされる素養を身につけさせていくことが大切である。</li> </ul>               |
|      | 進路実現のための基礎固め                | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業を大切にできる態度を育成する。</li> <li>基礎学力の充実させ、家庭学習を実現する。</li> <li>自己能力の認識と開発をさせる。</li> <li>進路に関わる情報を収集させる。</li> </ul>   | B   |  |  |   |
| 第3学年 | 最高学年としての自覚と社会の一員となるための資質の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的生活習慣を確立させる。<br/>※年間遅刻20回以上の生徒を5人以下にする。(昨年度は13人)</li> <li>学校生活の様々な場面での指導を通して、規範意識を向上させ、問題行動を未然に防ぐ。</li> <li>学校行事等に主体的に参加させる。<br/>※年間欠席20日以上以上の生徒を10人以下にする。(昨年度は22人)</li> </ul> | B   | <p>卒業後の進路をより身近に考えるようになり、生徒は落ち着きを見せた。問題行動は激減し、学校内での行動も穏やかになっていったが、基本的生活習慣が確立できていない者は遅刻・欠席を繰り返した。そのような生徒からは『社会に出ればちゃんとする』という言葉は何度も聞いた。何をどうすべきかはわかっているにもかかわらず、行動に移さない生徒へのアプローチの正解を見つけれずにいる。</p> <p>多くの先生方が親身になって生徒の進路を考えてくださったおかげで、多くの生徒が卒業後の進路を獲得している。未定の者についても引き続き指導にあたる。</p>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者も巻き込んだ生徒指導。その子の当たり前を知るころから、指導すべき内容を見いだしていく。</li> <li>様々な職業・大学・専門学校を知るような仕組み作り。知らないことは選択肢に入れることができない。知っていることを増やすことが一番の生きる力の育成。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒によっては、自己の目標をしっかりとって学校生活を送り、卒業した生徒がいる。その反面、それが実現できなかった生徒がいた。それらを総括し、学校全体の課題とし、その解決を図ることが必要である。</li> </ul> |
|      |                             | 進路の実現   | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的目標を早期に設定させる。</li> <li>家庭学習を充実させ、促進講座に積極的参加させる。</li> <li>進路決定後の指導を徹底する。</li> </ul> |  |  |   |